

たけた 市議会 だより

NO.51

平成30年11月1日発行



久住山と星空

写真提供者

阿南 英治 萩町出身 久住町在住

Profile

写真歴

National Geographic DAILY DOZEN 2014/03/27 select
<https://yourshot.nationalgeographic.com/daily-dozen/2014-03-27/>

子供達向けにプログラミング体験教室「かてて」を主宰

- 一般質問 2～7
- 行政視察 8～10
- 予算特別委員会 10
- 第3回定例会の議決結果 11

一般
質問

市政を問う



9月12日・13日、10人の議員が一般質問を行いました。その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。

農業政策について



吉竹 悟

問 基盤整備完了後、経年劣化により暗渠排水や水路・農道等に深刻な問題が発生している。行政として対応策を考えるべきではないか。

農林整備課長 市の基盤整備率は7割。その94・7%は事業完了から10年以上経過し、暗渠排水機能の低下、水路の排水不良、農道の劣化や狭小化など、様々な問題を抱えている。再整備には、農作業効率の向上や高収益作物への転換など、地元関係者の営農計画の意向確認を十分行い、計画策定をしている。

今後も持続可能な農業振興に向け、攻めの農業に必要な基盤整備を引き続き推進していく。

移住定住政策について

問 移住定住政策の中で、地域住民と新規移住者とのトラブルが発生している。ワンストップで対応できる窓口が必要ではないか。併せて、事

例に沿った相談にもキチンと対応するべきではないか。

企画情報課長 地域の方、移住者双方に課題が生じることがある。慣習など地域コミュニティに関すること、道路、水路等のインフラの問題など多岐にわたる。移住定住政策を進めていく中で、ワンストップで対応できるように関係課で協議する。

絶滅危惧種（オオルリシジミ）の保護について

問 40年ぶりに絶滅危惧種のオオルリシジミが市内で発見された。市としての保護対策を問う。

文化財課長 久住町の牧野で保護活動が取り組まれている。村田会長を中心に「オオルリシジミ保存会」が結成された。かけがえのない財産を守り継承するための地域住民の理解と愛着が素晴らしい活動を生み出している。しかしながら、発見の報道を契機に久住に多くの採捕者が来ている。保護区域の選定、土地所有者の同意を得て、有効な保護対策を講じていく。

その他に市道の支障木の伐採につ

いて質問をした。



阿部 雅彦

森林環境譲与税について

問 国はどのような方針を持っているのか。

農政課長 森林整備やそのための人材育成、木材の活用等に取り組みため、来年度より竹田市には、平成31年度から3年間は2千万円ずつ、平成34年度から3年間は3千万円ずつの財源の分配措置が予定されている。

問 税の使途について、竹田市はどのように考えているのか。

企画情報課長 木質バイオマスや竹資源の活用も含めた調査研究をし、事業展開を考えていきたい。

学校施設の環境整備について

問 夏の暑さ対策として、冷房設備の整備が急務ではないか。

教育総務課長 全ての小・中学校に一気に設置することは難しいが、出る限り早急に取り組んでいきたい。

問 避難所としても使用される体育館のトイレの洋式化が必要ではないか。

教育総務課長 防災担当部署と協議し、未整備の体育館のトイレの洋式化を検討したい。

福祉力の充実について

問 各地域に配置されている避難所の位置や数で、今後想定される災害に対して、十分な対応ができるのか。

総務課長 民間施設への協力要請を自主防災組織と共に行い、地域の避難所の確保を目指していきたい。

問 見守りネットワークづくりのために、個人情報保護の課題をどのように克服するのか。

高齢者福祉課長 個人情報に関する条例の整備を含めて慎重に審議を重ね、地域における利用や管理を検討したい。

問 高齢者の免許返納について、竹田市としての取組は。

総務課長 安全運転のための免許継続支援をすると共に、自主返納した皆さんのための地域交通の在り方の検討をしていきたい。



佐藤 美樹

情報管理・情報発信について

問 庁内の情報端末のウィルス対策と個人情報管理、職員の情報管理教育は。

企画情報課長 対策ソフトや二要素認証カード導入を行っている。定期的な職員研修を実施している。

問 市公式SNSで市民にタイムリーで細かい情報伝達をしてはどうか

総務課 検討する。

ケーブルネットワーク事業について

問 告知放送端末のIP電話とグループ放送機能の活用状況は。

企画情報課長 一部の利用に留まっており、活用の幅を広げたい。

問 ケーブルネットワーク事業の収支をどうみているか。

企画情報課長 利用料収入に対し機器更新の経費等で、年平均7百万円の一般財源を投じている。利用料は県内他市の平均である。

問 ケーブルネットワーク審議会で

はどのような意見が出ているか。

企画情報課長 高校の紹介や市の政策特集を評価している。市民ニーズを反映すべきとの提言もいただいた。事業民営化を期待する意見もある。

問 事業民営化について市の見解を聞く。

企画情報課長 料金収納や機器保守管理を除く番組制作等の委託を検討している。

消防行政について

問 消防団員の確保の取組は。

消防長 条例定数890名に対し、実数は848名。団員募集のPR動画をケーブルテレビで放映している。

問 女性吏員の採用はどうか。

消防長 新消防庁舎には女性吏員のトイレや仮眠室があり、平成26年から募集を行っている。受験者はいが採用に至らなかった。女性消防吏員の必要性は認識している。

問 救命講習の実施状況は。

消防長 昨年度、入門・普通・一般救命講習を合わせて1,838名が受講した。女性消防団員が応急手当普及員の資格を取り、指導にあたる。

問 グランツたけたと歴史文化交流

センター、交流プラザの防火設備は。消防長 自動火災報知設備、スプリンクラー設備等を整備。特に、歴史文化交流センターは展示物を考慮し、ハロゲン化物消火設備を整備した。



首藤健二郎

岡城観光について

問 災害で傷んだ石垣の修復はどうなっているのか。

文化財課長 石垣ではなく、土台となっている岩盤そのものが崩落したため石垣の前面が飛び出している。「岩盤が剝落した状態なので、頑強なコンクリートで造らなければならぬ」という結論に達した。

問 景観への配慮が足りないのでは。文化財課長 もともとない石垣をそ

こに造るのは本来の姿ではない。よって好ましくない。調査整備委員会で着色の意見が出たが、周辺の色が変化するため、着色は逆になじまないの経年変化を見守るのが妥当。上部から草を垂らし、下部は成

長の早い植物を植栽して景観形成を行う。

問 つる草等で全部が隠れるのはいくらいか。

文化財課長 専門家に伺うと、4、5年かかると言われている。

問 事前に議会への説明はあったのか。

文化財課長 工事の内容の細かい仕様等については議会に説明していない。予算は報告した。

問 商工観光課とはどんな協議をしたのか。

文化財課長 細かい部分の打ち合わせはしていないが、商工観光課も認識はしている。

問 コンクリートの耐用年数は。

文化財課長 専門家ではないが、通常100年とか200年と聞いたことがある。我々は、崩壊を防ぐ最良で最善の策だと思っている。

問 岩盤を石垣で積み上げる工法はできないのか。

文化財課長 あの岩盤は、阿蘇の火砕流が堆積した地層であり、そこに石垣を造った場合、「なぜそこに石垣があるのか？」という誤解を招く。今後、市民の皆さんや専門家の方で、

いい提案があれば真摯に受け止める。

問 岡城の桜が危機と聞く。対策は。

文化財課長 ソメイヨシノは古木となり、腐れた部分も多い。桜は同じ土地に次の桜が育ちにくい状況もある。江戸時代末の景観に戻していきたい。

問 市民は入場料無料にできないか。

文化財課長 姫路城、松本城、熊本城等国指定の城で無料はない。史跡の維持管理のため、市民の皆さんにご協力いただきたい。



日本共産党
上島 弘二

いじめ・引きこもり防止対策について

問 「人はいじめをやめられない」と述べる脳科学者が居る。要するにいじめはなくなると結論付けているが、そこで平成29年度の市内の小、中学校におけるいじめ・引きこもりの発生件数とその内容、またその対応を問う。またどのようないじめ防止対策がとられているか。同時に、いじめの早期発見のため、匿名

での通報・相談システムが設けられているか問う。

学校教育課長 29年度のいじめ件数は小学校175件、中学校で55件。ひきこもりは小学校5件・中学校6件。内容は冷やかしの悪口・文句・無視・仲間はずれなど。対応は道徳・人権等の学習や人間関係を見る級友調査などを学期ごとに全職員で対応している。匿名での通報・相談システムは設置しており、時々相談の電話があるが、もっとシステムを保護者や社会に周知する必要がある。

小中学校のエアコン設置について

問 今年の夏のトップニュースは、各地の豪雨大災害と連日35度を超える酷暑問題があげられる。その異常な酷暑のために体調を壊すばかりか、老人施設では連日高齢者が熱中症で亡くなるほどである。学校環境も同様の状態が見られ、学校行事・部活動や作業を中止するほどで、他県において校外授業後の1年生児童が熱中症で亡くなるという痛ましい事故も起こっている。また来年以降も酷暑が懸念されるところから、子どもたちの命と健康を守るため、当竹田

市内全小・中学校へのエアコン設置を早急（来年7月以前）に実施願いたい。そこで竹田市のエアコン設置計画を問う。

教育総務課長 この件は緊急課題であり、どの程度必要か調査中。整備計画を作成して国に要求するが、予算が付くのは年明けと思う。なお一気設置する事は難しく、工期は夏休み中が考えられる。



佐田 啓二

温泉資源活用による新たな観光戦略と滞在型観光交流の促進について

問 竹田市定住促進ビジョンでは「温泉療養保健制度」を竹田市独自の政策として取り組むこととし、市独自の補助制度も作った。実績は。

商工観光課長 スタートした平成23年度から27年度までは概ね緩やかに増加している。対象となる宿泊者数も27年度は4千人を超え、補助金給付額も227万2千円となったが、熊本大分地震で28年度29年度は大き

く減少している。

問 国民保養温泉地としての長期滞在者の受入促進や環境整備を行うということで今建設中の、クアハウス及び併設宿泊棟・レストラン棟の建築工事の進捗状況と営業開始時期はいつになるのか。

直入支所長 クアハウスは8月末で80%の進捗率。条件が整い次第営業開始したい。宿泊棟・レストラン棟は4か月遅れとなりそう。その理由は設計金額と見積金額とに大差が生じた為、年度内営業開始を目指す。

新たな農業政策について

問 「竹田市地域農業経営サポート機構」は農村商社わかばが、農業関連組織と連携して、効率的な営農や担い手不足の集落への対応、新規就農支援等を総合的にサポートする組織としているが、今の「わかば」の実態でこの事業ができると思うか。

市長 県の推進事業でどこも重荷に感じている。民間でそのノウハウは今はまだない。その道に長けた人材が確保できたのでスタートした。しかし、必要に応じて見直す。市も県も心配している。覚悟をもって取り

組む。

問 六次産業の推進、今やカット野菜の需要は拡大している。カット野菜・中食加工向けの原料となる野菜は、竹田・阿蘇・大野で大量に生産されている。そこで、それらの地域の中心でもあり、一大生産地でもある菅生に加工施設を建設してはどうか。

市長 過疎化・高齢化の進む農業再建の為に検討に入ってもいいと思う。企業等を探しながら或いはどこかと連携できないか、また、国の制度を研究するなど前向きに検討したい。



加藤 正義

久住高原農業高校の開校について

問 どんな魅力的な特色あるカリキュラムなのか。

久住支所長 県教委の方針は、①基礎から高い専門性までを学習できるよう、実習やインターンシップ等で学ぶ。農業経営の実践について

も、自営者や地元の農業法人から講師を招く。

②「チャレンジMY農場」で農場づくり、栽培から加工・販売まで挑戦する。

③安全・安心の農産物を栽培する。また、オリジナル商品を開発する。

問 専門的なコースは。

久住支所長 農業経営や関連企業などに就職するために「農業経営実践コース」、獣医師や、教員、公務員等を目指す「プロジェクト探求コース」の二つである。

問 学習指導のサポート体制は。

久住支所長 九州大学、宮崎大学農学部、大分大学理学部、県農業大学校、全農県本部からも講師を招く。

問 どう入学を増を図るのか。寮費は。

久住支所長 オープンキャンパスを2回開催など新高校、竹田市のPRに努める。寮費月額、4万円代で検討中。

竹田高校、竹田南高校、両高の市営球場の要望について

問 両校の部活で利用できるグラウンドを入田に整備する考えは。

市長 竹田市営陸上競技場ともう1面あれば、大型大会も誘致できるということも考え、もう一度検討してみたい。どれ程の予算が必要か、環境や効果も含め調査してみたい。

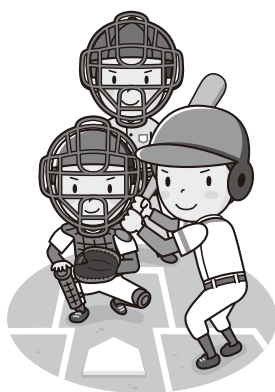
中学校の部活動指導について

問 教職員の多忙化が、社会問題になっている。部活動の指導も加重になっているのでは。

学校教育課長 部活動の意義は大きい。しかし勤務終了後なので、加重になっているのも、事実である。

問 文科省は、「部活動指導員」を配置の方針であり、効果があると思われる。竹田市の場合配置は進んでいるのか。

学校教育課長 配置は進んでいない。部活指導員の指導中は、顧問は指導できない。月24時間の制限もある。また指導員になる方もなかなかいない現状である。



井 英昭

教育施設の猛暑対策について

問 竹田市内の教室数、エアコン設置の試算金額は。

教育総務課長 エアコン設置が必要な普通教室数は小75、中32、特別教室数は小41、中32。金額は概算で3億2千万円。

井 答弁では来年から2〜3年で整備することだが、それでは遅い。豊後大野市は今年の夏に全ての教室にエアコンを設置した。竹田市の本気度が問われている。

学校統廃合について

問 保護者から小中学校の統廃合を進めてほしいという意見をよくいただくが、統合しないという基本的見解は変わらないか。

教育長 教育委員会として小学校はまず存続を念頭に置くが、存続が難しくなった場合は保護者や地域の声を聞きながら再編による配置も考慮する。中学校も同様に存続が難しく

なった場合は、再編による配置を推進していく。

問 教育委員会で学校統廃合の議論はどの程度されているか。

教育長 統廃合についてはいろいろな場で協議をしている。幼稚園・小学校では小規模校の保護者と話し合いを持つ予定で、中学校では6校を統廃合する玖珠町の例を参考にしたい。統廃合も含めながら議論を重ねていきたい。

問 地域や保護者の声を聞くということで、アンケート実施を提案するが、当事者の想いを大事にしてほしい。ここでの当事者とは子育てをしている親の事だ。特に母親の意見を第一に考えてほしい。地域の声に母親の意見は埋もれてしまいがちな

ので、母親の意見がよく表れるようなアンケート手法を望む。それを元に地域の声を聞くべきと考える。

教育長 27年のアンケートから3年が経ち、次のアンケートを準備しているところだが、中身はもう少し検討したい。

井 アンケート結果の公表を望む。

その他に子育て支援と幼児教育無

償化について質問した。



鷺司 英彰

クアハウスに併設される宿泊棟・レストラン棟の現状と課題について

問 民設民営で進められる宿泊棟とレストラン棟を運営する事業者に、市から支払われることになっている補助金1億円はすでに支払われたのか。支払われたのであれば、支払先と期日を聞く。

直入支所長 協定書により、支払期日は本年5月16日、支払先は(株)長湯ホットタブである。

問 当初の計画に照らすと大きなズレがあるが、どのくらいズレているのか。また、その原因は何か。

直入支所長 約4か月ほど遅れている。原因は、災害等による資材の高騰や、宿泊棟とレストラン棟の建設費が高額になるため、設計の調整に不測の期間を要しているため。

問 1億円支払いの根拠と何を確認して支払ったのか。

直入支所長 支払いは、平成29年10月24日に結んだ協定書による。根拠は基本協定、事業契約、建設設計委託契約が締結されたことによる。

問 支払先が、(株)長湯ホットタブだというが、協定書の中にこの会社はない。協定書では、市「甲」は、(株)ホットアルバム炭酸泉タブレットほか2者「乙」に支払うとなっている。協定書が無効ではないのか。

直入支所長 現地法人は(株)長湯ホットタブだと考えている。その新しい会社を支払った。

問 この件に関して、法務の面からどう捉えているか。

総務課長 事実関係を確認していないので、答弁を差し控える。

問 昨年6月議会で1億円を補正予算として上げた。平成30年8月現在姿が見えない。決算上大丈夫か。

財政課長 建設事業と公金の支払い事業は別に考える必要がある。政策が完了しているこの補助金事業の支払いについては、完了しているので精算払いをした。

問 竹田市補助金交付規則に沿った基本協定書でなければならないと考えるがどうか。

総務課長 竹田市補助金交付規則に則り事務処理する案件は多い。1つの案件だけですべての案件を規定することはできない。今回の場合、物差しに沿った協定書を締結するという手段をとった。



渡辺 克己

クアハウス併設宿泊棟・レストラン
棟建設及び運営について

問 建設・運営事業募集要項とプロポーザル審査要領に基づき選定委員会で決定された4社の事業者が、市の判断で(株)長湯ホットタブ他2社になったその根拠は何か。

直入支所長 3社で話し合いの結果、経営方針を今まで通りに継承していることが確認されたこと。3社に経営能力もあることを根拠とする。

問 選定委員会で決定された落札者を市が変更できるのか。

副市長 選定委員会は優先交渉権者を決定し、事業者の決定は市の権限である。

問 審査要領には応募者が1者の場合の取り扱いが明記されている。1回目の審査会で249点以下の場合には再公募となっているが、再公募されていないのはなぜか。

副市長 原則的には再公募であるが、クアハウスの開業に合わせることを優先し、この事業者に決定した。

問 現地法人の(株)長湯ホットタブの設立時の住所が、市の行政財産であり現在稼働中のドイツ村簡易宿泊施設であるが、貸付許可と使用料はどうなっているのか。

直入支所長 使用されていない物品販売所部分を企業進出協定に基づき使用許可したものである。

生涯学習課長 使用料は納入されていません。(後日訂正27年度・28年度の使用料は納入済み。)

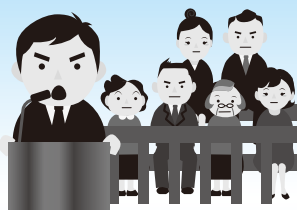
問 (株)長湯ホットタブの簡易宿泊施設内、現住所での営業実態について聞く。

直入支所長 当初は非常勤の従業員1名で、現在は職員3名にパート2名で営業している。

問 稼働中の行政財産の中での営業実態と、現住所では本年8月時点において前営業状態から改築されていない状況にあった。営業実態には疑問があり会社として信頼できるのか。

市長 長湯において担当部長が携帯電話で入浴剤を販売しており、販売量も大きい。竹田市の「ふるさと納税の返礼品」にもなっている状況である。信頼のできる会社であり、竹田市と運命共同体としてやっていきたい。民設民営が履行できないときは補助金の返還を求める。

議会を傍聴に いらっしゃい ませんか



所定の受付簿に住所・氏名等を記入するだけで、本会議や各委員会を傍聴することができます。どうぞ、お気軽においでください。

また、ケーブルテレビでも定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問の中継を行っています。

傍聴席には限りがあるため、希望者が多い場合にはご希望に沿えないこともあります。



総務常任委員会

委員長 鷺司 英彰

10月2日から4日まで、長野県塩尻市と飯田市を訪れ行政視察を行った。

10月2日 長野県塩尻市

研修テーマ ICT街づくり推進事業「センサーネットワークによる減災情報提供事業」について

この事業は、平成24年事業計画を立て、総務省に提案し採択された事業である。「ICT」とは「情報・通信に関する技術の総称」。塩尻市はこうしたコンピュータ技術を使って、市内に設置された各種センサーから、土中水分情報、水位情報、鳥獣害情報、市内巡回バス情報、見守り情報を集積し、これらの情報を必要な人に提供している。土中水分を分析することで土砂災害の危険性を、水位情報は川の氾濫の危険性を察知できる。猪等が罠にかかったことが携帯電話に情報として入って来

ると併せて、フラッシュ（光）で追い払うこともできる。子供や高齢者が携帯している見守りセンサーで位置情報を得ることによる安全確保にも利用されている。

設置費用も含めた大きな維持管理費が課題ではあるが、こうしたICT技術を利用した事業は、これから竹田市も含め全国に広がっていくことが予想される。



長野県塩尻市

10月3日 長野県飯田市

研修テーマ 「地域自治組織と公民館の関わり」について

戦後、荒廃し混乱した社会状況の中で、新しい日本を築き上げるには教育の力が必要であり、その中心的な役割を果たすために郷土再建の拠

点として、公民館の設置が提唱されてきた歴史がある。

飯田市の市政経営の基本的な考え方は市長部局が主導ではないところに特徴がある。15市町村の合併で誕生した現飯田市では、地域の事はそこに住む地域住民が一番よく知っている、自治会が地域づくりの基本となっている。その活動の中心的役割を果たしているのが、20地区にあるそれぞれ公民館である。各地区の意見をまとめ飯田市としてのビジョンや基本構想を定めている。公民館長の選任や報酬等も市からではなく各地区に委ねられている。

今回の研修会場が市庁舎ではなく公民館であったことも印象的であつたし、実際地域づくりの中心であることが理解できた。

ラウンドアバウト（市内に2か所）

「ラウンドアバウト」とは、交差点の中央に円形地帯が設けられた円形交差点である。乗用車の普及により信号機の代わりに設置されている。①速度抑制による事故の抑制、②信号停車がないために円滑性が保たれる、③エネルギーの節約、④信号機設置の費用や維持費を削減できる。

こうした利点がある。



長野県飯田市

産業建設常任委員会

委員長 佐田 啓二

秩父の森づくりを学ぶ（埼玉県秩父市）

平成31年度から森林環境譲与税が始まることから、森林をいかに守り、活用していくかが課題として急浮上してきた。そのため面積の87%を占める森林の整備・活用に先進的な秩父市の取り組みを学んだ。

秩父市では、平成22年に森林施策に特化した「森づくり課」を新設し、森林育成・木材利用促進・木育等の事業に取り組んでいる。

具体的には、①適正に管理された森林に対して与えられる森林認証を



埼玉県秩父市

取得し、秩父産木材のPR及び利活用を推進。②人材育成、雇用の促進に関しては、「秩父地域森林林業活性化協議会」を通して補助制度や支援事業を行っている。③小規模で分散している森林を集約し、一体的に施業できる環境整備のため「森林整備地域活動支援事業」を推進。④「秩父市公共建築物における木材利用の促進に関する方針」を策定し、多くの市の施設にふんだんに使用。⑤ボランティアによる「秩父森づくりの会」を組織し整備と間伐を進めている。その他にも獣害対策、PR用映画の作製など多方面にわたる取り組みをしている。竹田市において整理しなければならない課題が見え

てきたことは成果であった。

リノベーションのまちづくり（群馬県富岡市）

富岡市の核は富岡製糸場である。

世界遺産に登録された平成26年の製糸場見学者数は133万7720人となり、前年の43倍と爆発的に増加している。世界遺産登録となった直後は、大勢の観光客と製糸場に隣接する中心市街地に一時的に複数の事業者が出店したが、観光客の減少とともに事業者の撤退が続いている。観光客の増加で浮揚したのは、食堂と土産品店だが、土産品店は大手外資によるものが多いということであった。逆に衣料品や生活用品は周辺部から買いに来ていた人が、認定後の人・車の混雑を嫌い遠ざかり売り上げは減少したという。更に人口減少、高齢化で空き家・空き店舗が増加している。これらの現象は「廃れたまち」という印象を観光客に与えマイナススパイラルに陥ることから、この悪循環を断ち切るために、官民連携したりノベーションのまちづくりに着手したのである。柱となる施策は、空き家・空き店舗の持ち

主とそれを活用して起業したい人をマッチングさせ起業へと進めるもので、そのための個々の施策を講じている。取り組みは道半ばで、竹田市の状況と重なるだけに今後も注視していきたい。



群馬県富岡市

社会文教常任委員会

委員長 井 英昭

成田市・自治体新電力事業について

9月議会では竹田市が1千万円を出資し自治体新電力会社を設立する予算を可決した。それを受け全国初の2つの自治体が共同出資して設立した自治体新電力会社を視察した。

千葉県の(株)成田香取エネルギーは再生可能エネルギーの地産地消の取

り組みを進めるとともに、2市の公共施設への電力供給による電力コスト削減、2市が所有する発電施設の売電収入による財政的なメリットを目的に設立された。成田市の清掃工場内の火力発電と香取市の太陽光発電から電力を調達している。

資本金は950万円、売上は約7.5億円、純利益は2200万円となっている。2市の公共施設のみに売電し、成田市だけで267施設、年間6200万円の節約になるそうだ。竹田市の計画では一般家庭に営業するが、成田市は赤字の際はいつでも撤退できるよう公共施設に限定している。竹田市とは違う哲学を感じた。



千葉県成田市

八千代中央図書館・市民ギャラリー

昨年、竹田市立図書館が開館したが、千葉県八千代市では市民ギャラリーと図書館の複合施設として中央図書館が27年4月に開館した。延床面積が約6,200㎡と竹田市立図書館の4倍程度となっている。

予約貸出システムはタグによるセルフ方式になっていて、人を介さないことで誰がどんな本を借りたなどのプライバシーに配慮していた。また乳幼児に優しい図書館を目指しており、子育て拠点としても図書館が機能していることも新鮮だった。

市民ギャラリーは展示だけでなく市民向け講座が豊富で、講座の発表などで、より稼働率が上がる仕組みに感心した。

図書館、ギャラリーともに民間委託だったが、それぞれ個性的な責任者で、その熱意がよく運営に生かされているようだった。

川越市・重伝建地区保存の取り組み

重伝建地区とは正確には、重要伝統的建造物群保存地区といい、全国で117地区が選定されている。県内では日田市豆田町、杵築市北台南



埼玉県川越市

台がそうだ。竹田市では現在、電線地中化事業などを含め、景観に配慮した事業を推進しているが、竹田市も将来的に重伝建地区を目指したいということ、平成11年に選定された埼玉県川越市を訪れた。

川越市の年間入込数は700万人、10月の川越祭りの際には2日間で100万人が訪れるそうだ。

川越市の景観保護は民間がリードしてきて、行政は後乗りと認めていた。建物だけでなく看板やのれんにもルールがあり、「川越感覚」と呼んでいた。民間・行政が共有できる「竹田感覚」は果たしてあるのだろうか。

第3回定例会

平成30年度一般会計補正予算

9億3,176万5千円増額

可決

(総額：219億3,131万8千円)

平成30年第3回定例会・予算特別委員会が9月19日・28日の両日開催され、付託された一般会計予算を慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

補正予算の概要

【歳出】

◆総務費	
平成29年度決算剰余金処理に伴う減債基金積立金	2億5千万円
IP告知システムセンター機器更新委託料	4,400万円
◆民生費	
生活保護総務費国庫負担金等返納金	5,080万4千円
荻認定こども園整備事業補助金	5,310万7千円
◆衛生費	
木質バイオマスエネルギー熱利用設備導入計画策定委託料	1,400万円
飲用水改善事業補助金	385万円
新電力会社出資金	1,000万円
◆農林水産業費	
生分解マルチフィルム購入補助金	1,114万円
サトイモ選果機導入事業負担金	164万2千円
繁殖雌牛安定生産対策事業補助金	2,100万円
◆商工費	
城下町サイン整備工事請負費	7,300万円
城下町交流プラザ駐車場整備工事請負費	630万円
ふれあい駐車場整備に係る経費	1,454万6千円
◆土木費	
市道維持補修工事請負費	5,000万円
道路改良舗装事業及び急傾斜地崩壊対策事業に係る県事業負担金	3,475万6千円
竹田地区都市再生整備事業に係る経費	1億2,485万6千円
◆消防費	
土砂災害ハザードマップ作成業務委託料	627万3千円

◆教育費

スクールバス購入費	650万円
小学校ブロック塀撤去及びアルミフェンス等設置工事請負費	150万円
久住総合運動公園体育館サッシ補強工事請負費	490万円

◆災害復旧費

農地災害復旧費	1,475万2千円
農業用施設災害復旧費	1,217万円
道路橋りょう災害復旧費	1,000万円

【歳入】

市税	2,960万9千円
地方交付税	△7,136万6千円
分担金	40万円
使用料	2万1千円
国庫支出金	6,086万2千円
県支出金	5,562万6千円
財産収入	38万円
繰入金	1億4,448万4千円
繰越金	4億9,584万2千円
諸収入	1,551万5千円
市債	2億39万2千円

併せて、債務負担行為の補正を行っております。

平成30年 第3回定例会

平成30年9月6日～28日
議案等の議決結果

議
決
結
果

条 例 案		
議案番号	件 名	結 果
議案第 84 号	竹田市コミュニティバス運行条例の一部改正について	可 決
議案第 85 号	竹田市税特別措置条例の一部改正について	可 決
議案第 86 号	竹田市水の国のわくわく農園条例の一部改正について	可 決
議案第 87 号	竹田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正について	可 決
予 算 案		
議案番号	件 名	結 果
報告第 5 号	専決処分事項「平成30年度竹田市一般会計補正予算（第3号）」について	承 認
議案第 80 号	平成30年度竹田市一般会計補正予算（第4号）について	可 決
議案第 81 号	平成30年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算（第2号）について	可 決
議案第 82 号	平成30年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	可 決
議案第 83 号	平成30年度竹田市介護保険特別会計補正予算（第2号）について	可 決
一 般 案		
議案番号	件 名	結 果
議案第 88 号	財産の無償譲渡について	可 決
議案第 89 号	竹田市長湯温泉クアハウスの指定管理者の指定について	撤回承認
議案第 90 号	竹田市長湯温泉多目的広場の指定管理者の指定について	可 決
決 算 認 定 案		
議案番号	件 名	結 果
認定第 1 号	平成29年度竹田市水道事業会計決算の認定について	認 定
認定第 2 号	平成29年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 3 号	平成29年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 4 号	平成29年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 5 号	平成29年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 6 号	平成29年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 7 号	平成29年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 8 号	平成29年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 9 号	平成29年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 10 号	平成29年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第 11 号	平成29年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
諮 問 案		
議案番号	件 名	結 果
諮問第 1 号	人権擁護委員候補者の推薦について	原案の者 適任
請 願 ・ 意 見 書 案		
議案番号	件 名	結 果
請願第 3 号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出についての請願	採 択
意見書案第 4 号	地方財政の充実・強化を求める意見書	可 決



県民体育大会 議員ソフトボール

監督

本田 忠

今年の県民体育大会議員ソフトボールは、雨の影響で1日だけの開催となった。今年の会場は佐伯市のソフトボール場。議会開催中でもあり、6市が日程の都合で参加しなかった。

対戦相手は大分市。結果は15対0と完封負けを喫してしまった。公開競技だとはいえ、昨年2勝し、意気が上がっていただけに残念な結果となった。16人の内の9人と、44人のうちの9人ではやはり違う。年齢的にも大分市の方がはるかに若い。悔しいが若さというのは大きな武器である。

そうは言ってもやるからには勝ちたい。ベテラン揃いらしく、作戦や工夫で来年は雪辱を果たしたいと思う。



今年もやって来た議員陸上。400メートルリレーは練習時期に体調のすぐれない選手が多くいたが、昨年と同じ選りすぐりの選手だけに回復をじっくりと待つことにした。その甲斐があった。1番走者の吉竹議員、2番走者の鷲司議員、3番走者の阿部議員、そして4番走者の徳永議員。昨年、このリレーの時に培ってきた皆のチームワークが今年もキッチリと決まった。昨年より一つ順位を落としたが、大分県下18市町村中なんと7位である。たいしたものだ。競技場の来場者に竹田市議会ここにありとアピールができ、監督冥利に尽きた。

個人100メートル走は首藤議員。昨年の出走前のパフォーマンスは、ウサイン・ボルトの真似。今年は何が出るのかと待っていた。なんと今流行のダ・パンプの真似だった。パフォーマンスは良かったが、成績は少し遅れて大分県下7位。雷が鳴る土砂降りの中での走りであったが、よく健闘してくれた。

時間は皆に平等にある。しかし、子供の時に感じた1時間と今の1時間は印象が違う。これが1か月、あるいは1年となると、さらに違うように感じる。子供の時間と大人の時間は違うのではないかとさえ思う。仕事に追われ、時間に追われるからか。

今日の自分が明日に、明日の自分が明後日にとずっと繋がっていく。今の自分は昨日までの自分の積み重ねである。今の自分はどんな自分なのだろう。

それにしても、今年の夏は早く過ぎたような気がする。

本田 忠

あとがき